

記入年月日
令和 3 年 4 月 21 日

事務事業名		児童虐待防止対策事業				事業区分		担当	
						新規/継続	継続	事務事業No.	010102000463
政策体系上の位置付け						単独/補助	単独	所属課	040201
政策体系	総合計画の施策名		0101	子育て支援及び少子化対策の推進					児童福祉課
	政策名		01	子どもから高齢者まで健康で共生のまちづくり				課長名	
	施策名		01	子育て支援及び少子化対策の推進				グループ	
	手段名		02	②保護者相談体制の充実				担当者名	
財務会計上の位置付け						事業期間			
予算科目	会計	款	項	目	事業	細	一般会計	単年度繰返し (平成26年度～)	
	01	03	02	01	02	00	児童福祉総務事業	➡ 期間限定の場合、総投入量を(3)投入量の右側に記入	
法令根拠	児童虐待防止法								

【Do】 1. 事務事業の現状把握（その1）

手段	(1) 事務事業の概要	
	①事務事業の概要（事務事業の全体像） ・平成25年度に児童虐待防止対策緊急強化事業補助金で購入した備品（児童虐待対応用車両、乳幼児家庭全戸訪問用備品、児童生徒を対象とした教育用備品）の有効活用を促進し、乳幼児家庭全戸訪問（健康推進課対応）、市内小中学校における保健教育等を実施し、児童虐待の未然防止、早期発見、早期対応を図る。	②担当者が行う業務の内容・やり方・手順 ① 備品活用促進のための協議（健康推進課、市内小中学校） ② 児童生徒を対象とした教育用備品の貸出 ③ 児童虐待防止啓発活動（オレンジリボン運動）

(2) 事務事業の手段・対象・意図と各指標、指標値の推移

①手段（担当者の活動内容）	④活動指標（活動量を表す指標）	単位	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度
			（実績）	（実績）	（計画）	（目標）	（目標）
① 備品活用促進のための協議（健康推進課、市内小中学校） ② 児童生徒を対象とした教育用備品の貸出 ③ 児童虐待防止啓発活動（オレンジリボン運動）	乳幼児全戸訪問実施数	戸（人）	170.00	160.00	170.00	170.00	170.00
	教育用備品貸出数	回	5.00	2.00	12.00	12.00	12.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
②対象（誰、何を対象にしているのか）	⑤対象指標（対象の大きさを表す指標）	単位	01年度 （実績）	02年度 （実績）	03年度 （計画）	04年度 （目標）	05年度 （目標）
市内小中学校児童生徒 初めて出産を迎えるパパママ	市内小中学校児童生徒数	人	3,041.00	2,792.00	2,792.00	2,792.00	2,792.00
	パパママクラス参加者	人	30.00	0.00	30.00	30.00	30.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
③意図（この事業によって対象をどう変えるのか）	⑥成果指標（対象における意図の達成度を表す指標）	単位	01年度 （実績）	02年度 （実績）	03年度 （計画）	04年度 （目標）	05年度 （目標）
育児不安や孤立感の解消と児童虐待の未然防止 小中学生に命の大切さを知ってもらう	訪問により育児不安が軽減できた割合	%	84.60	96.20	96.20	96.20	96.20
	授業・研修会受講者数	人	162.00	113.00	160.00	160.00	160.00
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

(3) 投入量（事業費）の推移				01年度	02年度	03年度			期間限定 総投入量
				(実績)	(実績)	(計画)			
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0		0
			県支出金	千円	0	0	0		0
			地方債	千円	0	0	0		0
			使用料・手数料	千円	0	0	0		0
			その他	千円	0	0	0		0
			一般財源	千円	2	39	55		0
			事業費計（A）	千円	2	39	55		0
			正規職員従事人数	人	4.00人	2.00人	2.00人		

事業費の内訳	02年度事業費 実績 (千円)			03年度事業費 予算 (千円)		
	10 需用費	39		10 需用費	55	
			合 計 39		合 計 55	

事務事業名	児童虐待防止対策事業	事務事業No.	10102000463	所属課	児童福祉課
(4) この事務事業を開始したきっかけは、いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？ 平成25年度に児童虐待防止対策緊急強化事業補助金で購入した備品を有効的に活用するため事業開始。虐待通告数は年々増加している。虐待の未然防止のためにも、妊娠から学童期への切れ目ない支援が求められている。					
(5) この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者）からどんな意見や要望が寄せられているか？ 特にありません					

【See】 2. 評価の部 *原則は事前評価。

評 価 項 目

現状維持	① 政策体系との整合性 (この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？)	☒ 結びついている	児童福祉の向上につながり市の政策に結びつく。
	② 公共関与の妥当性 (なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？) (法定受託事業はその名称)	☒ 妥当である	児童虐待防止に関する事業であり公共関与は妥当である。
	③ 成果の向上余地 (成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？)	☒ 向上余地がない	備品の有効活用により、引き続き各小・中学校で保健教育等を実施し、児童虐待の未然防止につなげる。
	④ 廃止・休止の成果への影響 (事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？)	☒ 影響有	児童虐待防止に関する正しい理解が得られず、児童虐待の未然防止ができない。
有効性	⑤ 類似事業との統廃合・連携の可能性 (類似事業や統廃合の可能性はありますか？(市以外の取り組みも含む)) (他に手段がある場合) ☒ 具体的な手段、事務事業名	☒ 余地がない	他に類似事業がありません。
	⑥ 事業費・人件費の削減余地 (成果を下げずに事業費を削減できないか？やり方を工夫して延べ業務事業を削減できないか？)	☒ 削減余地がない	事業費は、児童虐待防止月間の啓発事業に伴うオレンジリボンの材料費であり、削減の余地はない。
効率性	⑦ 受益機会・費用負担の適正化余地 (事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？)	☒ 公正・公平である	桜川市民が対象であり公正・公平である。

【Plan】 3. 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)

(1) 1次評価者としての評価結果		(2) 全体総括(振り返り、反省点)																						
① 目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ② 有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③ 効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ④ 公平性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり	⇒	市内小中学校における保健教育等で備品を活用し、児童虐待の未然防止、早期発見、早期対応を図ることができた。また、児童虐待防止月間の啓発のためオレンジリボンを作成して、市職員や会議等で配布して啓発に努めた。																						
(3) 今後の事業の方向性		(4) 改革・改善による期待成果 (終了・廃止・休止の場合は記入不要)																						
☐ 終了 ☒ 継続 ☐ 改革改善を行う → ☐ 目的の再設定 ☐ 効率性の改善 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☒ 現状維持 ☐ 有効性の改善 ☐ 公平性の改善 ☐ 統廃合ができる ☐ 連携ができる		<table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		○																					
	低下																							
(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策		(6) 事務事業優先度評価結果																						
		成果優先度評価結果 ☒ ⑦																						

【Check】 4. 確認及び改革改善に向けての指摘事項

(1) 課長評価	(2) 部長確認及び評価 (課長評価により、C、D判定及び確認が必要な場合)
課長確認後の評価 ☒ A A: 継続(現状維持) C: 終了、廃止、休止 B: 継続(改革改善を行う) D: 2次評価へ提出	確認欄 ☐